

大規模社会基盤施設の計画史的評価に関する研究小委員会 活動報告

研究小委員長：佐藤 馨一（北海道大学大学院）

1. 小委員会の設置目的

近代以前の土木遺産およびその史料については技術的、歴史的評価がなされており、保存される例が増えつつある。しかし、昭和 30 年以降の我が国の高度経済成長を支えてきた大規模社会基盤施設に関しては、建設からの時間が短いために、歴史的な評価にはなじまなく、しかも土木計画学的な事後評価も本格的に行われてこなかった。本小委員会は、我が国が世界に誇る戦後の土木事業、土木技術、大規模社会基盤施設を将来にわたって正当に評価し、その役割を伝えるべく、計画史的評価を行うことを目的として平成 13 年度に設置された。平成 15 年 11 月開催の土木計画学委員会にて 1 年延長が承認され、平成 16 年度が最終年度であった。

2. 平成 16 年度活動報告

(1) 研究対象テーマ

下記の大規模社会基盤施設について研究を行った。()内は研究代表者。

- ・青函トンネル(北大・佐藤)
- ・小樽運河長橋バイパス(北大・高野)
- ・八郎潟干拓(秋田大・清水)
- ・只見川電源開発(日大・知野)
- ・東京湾横断道路(東洋大・古屋)
- ・京葉工業地帯(足利工大・為国)
- ・新東京国際空港(岐阜大・竹内)
- ・名神高速道路(山梨大・西井)
- ・明石海峡大橋(徳島大・近藤)
- ・中国縦貫自動車道(岡山大・馬場)
- ・本四架橋(熊本大・小林)

(2) 活動報告

平成 16 年 7 月 30 日(金)～31 日(土) 小委員会合宿

- ・各委員の研究状況報告
- ・各研究対象テーマに対する意見交換
- ・最終とりまとめに向けて

(3) 主な研究成果

各研究テーマに関して、下記の点を中心にしてまとめた。

- ・大規模社会資本施設の計画、建設、管理に関する資料の所在を把握し、土木アーカイブス（文書）を整理した。
- ・年表作成による計画プロセスの検証を行い、事業の構想から計画策定、実施に至る関係者を抽出した。
- ・土木計画学、土木史学の連携による大規模社会基盤施設の事後評価法を構築した。
- ・国土軸を構成する大規模社会基盤施設の役割を総括し、その整備効果をまとめた。

3. 小委員会活動終了報告

研究成果について出版の方向で検討してきたが、内容に関して調整が必要であり、引き続き検討する。ただし、小委員会活動は平成 16 年度を持って終了とする。